



Good News for Japan **とぎのこえ**

平成二十八年七月一日発行
昭和二十二年一月二十四日(第二種郵便物認可)

明治二十八年創刊 毎月一日・十五日発行

「救世軍」の名のもとに

太田 晴久



逃れてくる難民の支援をするギリシャの救世軍 (関連記事4ページ)

救世軍創立記念日 7月2日

四月の熊本地震を受けて、大阪・難波にあるデパート前で臨時の社会鍋をおこないました。わずか二時間程で、約二十万円の献金をいただくことができました。翌週、熊本県の益城中央小学校の体育館に避難されている方々にラーメンとチャーハンを提供しました。それまでの避難生活の食事は、朝はパン、昼はおにぎり、夜は弁当であったため、温かいものが食べたいという要望に応えたものでした。

救世軍の所有するキャンピングカー(調理設備を備えた車)に食材を積んで出掛け、最終的に六百食を配ることができました。「おいしかった」「ここでラーメンを食べられるとは思わなかった」などの声を聞き、ひとときの安らぎと温かいものを提供できたことを、参加者一同で喜び、感謝しました。その支援は、東京から、大阪から、岡山から、広島から、「救世軍」の名のもとに集まった人々によって実現しました。

救世軍は、イギリス・ロンドンで、一八六五年七月二日から連夜開催された、牧師ウイリアム・ブースによるテントでの伝道集会を緒として、今日に至っています。そのロンドンで最も貧しく、虐げられた人々の住む地域での伝道によって、多くの人々が信仰へと導かれたのでした。

ところで、「救世軍」という名には、創立者たちの思いが込められています。一八七八年、当時、彼らは、「キリスト伝道会」という名称で活動していました。その年報に、「伝道会は、全世界の隅々までキリストの血(十字架による救い)と聖霊の火(人をきよい存在へとつくり変える聖なる力)を携え行くため、救いの軍隊を組織した」(カッコ内編集者注と記したことがきっかけとなり、次第に「救世軍」という名のもとに活動するようになったのでした。その戦いの目的は、貧しさの中で罪の誘惑に陥る人々の救

いでした。現在、救世軍は、世界百二十七の国と地域で活動しています。ウイリアム・ブースは、一九一二年五月九日、ロンドンのロイヤル・アルバートホールで大会衆を前にこのように言いました。「今日そうであるように、女性たちが泣く限り、私は戦う。今日そうであるように、幼い子どもたちが飢える限り、私は戦う。今日そうであるように、男たちが刑務所に入りする限り、私は戦う。酔漢が残っている限り、街頭に哀れな失われた娘がいる限り、神の光を受けない一人の暗黒な魂でも残っている限り、私は戦う。私はまさに最期に至るまで戦う！」(「人類愛の使徒ウイリアム・ブース」 救世軍出版供給部刊より)

この創立者の精神は、今日も変わることのない救世軍の使命です。

最近、一人の救世軍の信徒が天に召されました。救世軍では、信徒が亡くなることを「天に凱旋する」と表現します。彼は、黙々と自分に与えられた任務に励む方でした。入院わずか二カ月。その最期のお顔は平安そのものでした。彼は、救世軍の制服に身を包み、棺の上には救世軍の旗が掛けられ、ブラスバンドによる賛美の音の響く中、斎場へと見送られました。

大伝道者パウロは、世を去る時が近づいた、と悟り、「わたしは、戦いを立派に戦い抜き、決められた道を走りとおし、信仰を守り抜きました。今や、義の栄冠を受けるばかりです。」(テモテへの手紙二 4章7、8節)

と語りました。パウロも、ひたすら信仰の戦いを全うし、確信をもって天に凱旋したのでした。

人は、置かれている場所や状況を問わず、罪の悔い改めと、イエス・キリストによる救いにあずかることによって天へ凱旋することができます。そう信じて、救世軍は、今も、救いのメッセージを携え、全世界で働きを進めています。

(救世軍士官(伝道者))

謹んで被災された方々にお見舞いを申し上げます。一日も早い心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。



はら きよこ 子 さん
篠原 清 子 さん

元気の秘訣は 喜び、祈り、 感謝すること！

〈インタビュー〉

「あちこちで出会う方から、「あのお年で、どうしていつも変わらず、生き生きとしていられるのでしょうか」と言われ、慕われている女性・篠原清子さん。その秘訣を知りたいと、お話を伺いました。

―篠原さんは、どのようなご家庭にお生まれになったのですか。

篠原 今から八十六年前、

キリスト教とは全く関係のない家庭で、七人きょうだいの三番目に生まれました。生家は佐野の町で名の知れた織物屋で、男性のズボンや兵隊さんの服を縫うことが中心でした。

家族は宗教にはあまり関心がなかったようですが、母だけは信仰心が篤く、私は家のそばにあるお稲荷さんに、毎日ご飯を供えさせられていました。このことを通して、私の中に「信仰

心」というものが養われたのだと思っています。

―篠原さんは第二次世界大戦を体験されたのですか。

篠原 小学四年生の時、戦争が始まりました。家の近くの高山神社で「戦争を始めます」ということを聞いて、びっくりしました。

その後、父は軍需工場で飛行機を造るようになったので、宇都宮に引越しました。私は女学校に入りま

したが、毎日、大谷石の採掘場跡に行き、ドリルで飛行機を造る勤労奉仕をしました。そこは大きな地下壕で、私たち女学生が屋根のないトロッコのようなものに乗せられて入って行くのです。今考えたら、人間扱いはされていなかったんですね。

―大変な時代でしたね。

篠原 B 29 がしよっちゅう飛んで来ましたよ。パイロットの顔が見えるくらい低空飛行の時は、恐ろしくて母にかじりつきました。母と一緒にあらあ世に行ったほうがいい、と思うほど怖かったです。兄も戦死しました。戦争なんか二度としてはなりません。今は戦争がなくて本当にいいな、と思います。

―戦後はどうされましたか。

篠原 敗戦後は本当に大変でした。終戦の年に佐野に戻り、父は以前の織物の仕事を再開し、忙しく働くようになりました。私も縫製の仕事に就き、十年くらい勤めました。家から職場に通う途中に、救世軍佐野小隊（教会にあたる）があったのです。その時は、救世

軍がどんな所なのかわかりませんでした。制服を着た女の人が他の人の家の前まで丁寧（ていねい）に掃除をしていたのを見て、「偉いな」と感じ入っていました。この時、この救世軍の女の人（後に、士官（伝道者）とわかりました）に出会わなかったら、私はたぶん神社仏閣（ぶつぐわ）を信じる方へ行っていたと思います。

―それでは、いつ、どのように救世軍にいらしたのですか。

篠原 私は常日頃、「人は何のために生きるのか」と考えていました。そして昭和二十二年、十七歳の時、ちょうど、野戦（街頭）でおこなう集会をしているところに行き合っただけです。佐野駅前で、大きな太鼓をたたいている人がいて、興味を引かれました。友達と一緒に見ていましたが、友達とは「面白くない」と離れて行ってしまいました。私は、「何だろう、この人たち？」との思いが強く、声をかけられたわけではありませんでしたが、その一行の後に、ついて行き、小隊会館の中に入りました。



昭和59年3月、小隊長の送別会で（後列左から3人目）

―救世軍の印象はどうでしたか。

篠原 「いいとこだなあ」と思いました。そして、「人は何のために生きるのか」という、学校でも教えてくれなかった疑問について、ここでは教えてくれました。「人は神様によって生かされている。体も神様からいただいたものだ。だから一生懸命生きるんだ」ということを、初めて知りました。それから、「ここは本物だ。これから、ここに来よう！」と思い、その後、小隊に通うようになりました。あの、丁寧にお掃除をし



お孫さんと

ていた女性は小隊長(救師に
あたる)で、聖書の話や信仰
の指導をしていた。だくだ
けでなく、女性同士という
ことで親しくさせていただ
き、とても楽しく過ごしま
した。若い人もたくさん集
つていて、いつもわいわい
がやがやとやっていました。
―信仰をもたれたのは？
篠原 救世軍に来るようにな
って、そんなに経って
ない時でした。大切な独
子のイエス・キリストを、
私の罪の身代わりに十字架
にかけてまで私を愛してく
ださる神様。聖書の詳しい
ことはまだよくわかりませ
んでしたが、聖書の言葉か
ら、今まで何かわかってい
ままに手を合わせていた信
心の対象が聖書の神様であ
る、とはっきり示されまし
た。焦点がピタッと合った、
という感じでした。

その後、若い人たちが来
なくなったり、いろいろな
事がありました。私は小
隊につながり続けました。
―その間に、ご結婚をされ
たのですか。
篠原 親同士が世間話をし
ていた時に話が出て、主人
と結婚しました。昭和三十
五年です。
主人は器用で、何でもで
きる人でした。でも、キリ
スト教、というより宗教そ
のものに反対でした。私が
毎日曜日に礼拝に行くこと
や、子どもは二人与えられ
ましたが、子どもが日曜学
校に行くのにも反対してい
ました。主人は、「行かなく
ていい」と。特に、元旦礼
拝の時は大変でした。新年
の喜びの時なのに、家の中
は険悪になって……。

―それでも、篠原さんは小
隊に通い続けた……。
篠原 はい。五十代の時は、
商業施設に勤めて日曜日も
仕事でしたが、十分でも二
十分でも礼拝に出たい、と
休み時間にバイクを飛ばし
て小隊に行っていました。
長い間反対し続けた主人
も、孫が救世軍の保育園に
通い、私が私の母を引き取
って、主人と一緒に介護す
るようになってから、だん
だん変わってきました。信
心深い母は「ありがたい、
ありがたい」が口癖だった
ので、共に介護をする中で
行動を通していろいろ思う
ところがあつたのかもしれ
ませんね。母は九十八歳で
亡くなったのですが、晩年、
認知症になり、その母を介
護する私を見て、主人は、
「せめてもの息抜きに教会
に送り出してやらなきゃ」
と言うようになったのです。
主人は今から十六年前に
亡くなりましたが、亡くな
る前に、私と一緒に所に行
きたいか、と聞きました。
そうしたら、「うんうん」
とうなずいてくれたので、
葬儀は救世軍式(キリスト教
式)でとりおこなっていた
できました。

―今、篠原さんの姿に感銘
を受けている方がたくさん
いらっしゃる、とお聞きし
たのですか……。
篠原 感銘だなんてとんで
もない。今は八十六歳。信
仰をもってから六十九年間、
私はただ小隊に通い続けた
だけです。信徒さんもご近
所の方も、小隊に来れば私
に会えると思つてくださつ
ているようで、本当に感謝
なことです。
今は娘一家と一緒に住ん
でいるので、小隊からは遠
くなつてしまいました。一
人で小隊に行く時は、佐野
駅から二十分くらい歩きま
す。花やいろんな物を見な
がら、小隊までの道を楽し
みます。気ままに歩くのが
好きなんです。健康のため
にもなりますしね。今住ん
でいるマンションは九階な
のですが、新聞を取りに行
く時は階段を使っています。
―九階から階段を使う
のですか。本当にお元
気なのですね。
篠原 最近、いろいろ
な人に、「あなたのように
に元気に生きられるコ
ツは何？」と聞かれま
す。聖書の中に、
「いつも喜んでい
なさい。絶えず祈り
なさい。どんなこと
にも感謝しなさい。
これこそ、キリスト。
イエスにおいて、神があ
なたがたに望んでおられ
ることです」
(テサロニケの信徒への手
紙一 5章16〜18節)

―「いつも喜び、祈り、感謝
すること」が、私の元気の
コツ、秘訣だと言えます。
元気で、生かされている。
ありがたいですね。
―最後に、これからの抱負
をお聞きますか。
篠原 一人でも多くの人に
神様のことを伝えなくちゃ
いけない、と思つています。
日本には、クリスチャンは
まだまだ少ない。本当の神
様を信じて、喜びの中で生
かされる人がもつともつと
増えてほしいです。
(佐野小隊(教会)所属)



佐野小隊の皆さんと(前列右端)

聖書の言葉
・初めに、神は天地を創造
された。(創世記1章1節)
・初めに言があった。言は
神と共にあった。言は神で
あった。
・言の内に命があった。命
は人間を照らす光であった。
・その光は、まことの光で、
世に来てすべての人を照ら
すのである。
(ヨハネによる福音書1章1、4、9節)
まことの光はイエス・キリス
ト
・わたしは世の光である。わ
たしに従う者は暗闇の中を
歩かず、命の光を持つ。
(ヨハネによる福音書8章12節)
わたしはイエス・キリス
ト
・神は、その独り子をお与
えになったほどに、世を愛
された。独り子を信じる者
が一人も滅びないで、永遠
の命を得るためである。
(ヨハネによる福音書3章16節)
独り子イエス・キリス
ト
・主イエスを信じなさい。
そうすれば、あなたも家族
も救われます。
(使徒言行録16章31節)

クリトリ
ご氏名
ご住所
□ 私の近くの救世軍を紹介してください。
□ キリスト教についてもっと知りたいです。
□ 「ときのかえ」の購読を申し込みます。
裏
この部分を封書か葉書に貼り、面下の救世軍にお送りください。

創立者 ウィリアム・ブリス 大将 アンドレ・コックス (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 ケネス・メイナー (救世軍本営 東京都千代田区) http://www.salvationarmy.or.jp



世界をみつめて

〈日本〉 熊本地震被災地支援 (続)



4月に発生した地震は、各地に深刻な傷跡を残し、現在も約6,900人の住民が避難生活を送っています。(6月7日現在)

5月24日(火)、救世軍は、熊本県菊池郡大津町にある避難所で、コーヒーサービスをおこないました。この建物では、老人福祉センターと社会福祉協議会が活動しており、約30人が避難しています。玄関ロビーで、コーヒーを中心に飲み物とクッキーなどのお菓子を提供し、他県からの災害派遣職員など、約80の方が利用されました。

〈ヨーロッパ〉 各国の難民支援

昨年より深刻な状況になっている、北アフリカ及び中東からヨーロッパへ流入する難民問題。救世軍の難民支援は今も続けられています。今回、ドイツとノルウェーの支援の様子が、動画で配信されています。

<http://sar.my/europerefugees>

●ドイツ ベルリンの街頭で、難民受け入れの手続きのため長時間並んでいる人々に、コーヒーサービスをおこなっています。



日本における 救世軍の指導者が変わりました。

ケネス・メイナー大佐が、アメリカより6月1日付で司令官として着任しました。夫人のシェリル・メイナー大佐は、女性の働きにおける指導者となります。



スタッフが声をかけると、涙ながらにそれまでの過酷な状況を話す人もあり、コーヒーだけでなく、生きる希望を提供する場となっています。

ライプツィヒでは、救世軍のリサイクルショップを利用して、地域の難民が安価に日用品や中古家具を入手できるように、配慮しています。それらの働きが、難民の交流の場ともなっています。また、小隊(教会にあたる)に宿泊施設を併設し、現在12人のシリアからの難民が生活しています。



●ノルウェー 首都オスロでは、250人が生活できる建物を緊急に整備し、インターネットでボランティアを募集して、食事と宿泊施設を提供しています。医師による身体的、精神的なケアもなされています。子どもたちは、地域の学校に通い、大人には、英語とノルウェー語の習得の場、レベルに応じて地元大学での聴講の機会、スポーツを通して心の負担を軽減させるなど、様々な支援をしています。



〈カナダ〉 森林火災の被災地支援

5月1日に発生した、カナダ西部のアルバータにおける森林火災は、850平方キロメートルの土地に及び、少なくとも1,600棟の建物を破壊、約9万人の住人の生活に影響を与えました。救世軍はすぐに、消火、救援活動等にあたる約1,100人の消防士や警察官等に、冷たい飲み物と軽食や食事を提供しました。その後も、多くの市民の献金を受け、1日に約2,000食の食事を提供し続け、救世軍のリサイクルショップを通じて、市民から献品された日用品や衣類を避難している人々に提供しています。




2016年 克己週間募金 結果報告

この度の克己週間募金(3/1~4/30)へのご協力、ありがとうございました。心からの感謝とともに、下のとおり結果をご報告申し上げます。

北海道地区	713,200
関東東北地区	1,734,599
東京東海地区	7,015,838
西日本地区	2,453,750
医療部	614,838
社会福祉部	1,813,324
士官学校	1,384,635
本営(本部)	171,860
全国合計	15,902,044

(単位:円) (2016年5月31日 現在)



一八六五年、ロンドンの貧しい人々、社会から顧みられない人々の物心両面からの救いを目指し、働きが始まりました。そして、助けを必要としている人々のニーズに迅速に対応するために、軍隊流の組織をとりました。

プロテスタントのキリスト教会で、世界百二十七の国と地域で活動しています。創立者はイギリスのメソジスト教会牧師だったウィリアム・ブリス。

現在、四十三の小隊(教会にあたる)と十二の分隊(伝道所にあたる)、十九の社会福祉施設、二つの病院(ホスピス併設)を通して働きを進めるとともに、街頭生活者支援や災害被災者に対する救援及び復興支援などをおこなっています。

救世軍とは

日本での働きは、一八九五(明治28)年に始まりました。その当初から、刑を終えて出てきた人々の保護や職業訓練、災害被災者支援、廃娯運動の推進、結核療養所の設立、子どもの保護などをおこない、社会福祉史に先駆者としての足跡を残しました。

世界の救世軍の指導者 アンドレ・コックス大将を 迎えておこなわれる

2016 救世軍全国大会

◆公開集会
10月22日(土) 14:00
日本教育会館一ツ橋ホール
(東京:神保町駅下車)

◆パレード(救世軍プラスバンドとタンパリン)
10月22日(土) 17:00
東京:神田神保町界隈

◆大会聖別会(礼拝)
10月23日(日) 10:00
日本教育会館一ツ橋ホール

♪ 音楽ゲスト ♪
アメリカ西部スタッフ・ソングスターズ
アメリカの西部を中心に、海外でも活躍する合唱団。音楽をとおして、キリストの福音を届けています。

集会のご案内

入場無料
集会には、どなたも参加できます

発行日 毎月一日・十五日
定価 発行部四〇円(平六〇円) 十五日号一部六〇円(平六〇円) クリスマス特集号(十二月一日号) 一部一〇〇円(平七〇円) 一年分二六〇円(送料七五〇円) 振替・〇〇一八〇五四四〇〇

発行兼印刷人 救世軍 代表者 ケネス・メイナー 齋藤 恵子

〒101-0051 東京都千代田区 神田神保町二丁目十七番 救世軍本営 図書印刷株式会社

(取扱支部) 救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

(この欄に通信文を書くと第三種扱いになりません)